

農政時流

第63号

令和6年1月1日発行

(一社)宮城県農業会議

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL / 022-275-9164

<https://miyanoukai.jp/>

1面：新年の御挨拶 (一社)宮城県農業会議会長 中村 功
2面：新年の御挨拶 宮城県知事 村井 嘉浩

令和5年度全国農業委員会会長代表者集会・本県選出国議員への要請活動

3面：第8回宮城県農業委員会大会を開催しました
おめでとうございます 第8回宮城県農業委員会大会表彰

4面：みやぎオンライン就農セミナーを開催しました

4面：北海道・東北ブロック女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会が開催されました

5面：宮城県農業者年金加入推進セミナーを開催しました
宮城県における地域計画策定に向けた取組

6面：農業委員会事務局職員の情報交換会を開催しました
お知らせ（農業委員会だよりコンクール、新常設審議委員の紹介）

新年の御挨拶

持続可能な食料システムの構築に向け、 農地等利用の最適化活動の充実を図ろう

一般社団法人 宮城県農業会議

会長 中村 功



新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、経済活動も平常に戻りつつありますが、一部

の農畜産物で消費の回復が遅れるなど、未だに影響が残るなか、皆様には「地域の農地を活かし、持続可能な農業・農村を創る宮城県運動」に基づき、継続して「新たな農地等利用の最適化活動」に取組んでいただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

また、多くの農業委員会で農業委員会法改正以来3回目の改選期を迎えたが、おかげさまで県全体の女性農業委員の割合が初めて20%を上回り、目標である30%を超えた市町村が4カ所増の7カ所となるなど大きな成果が見られました。引き続き、御協力をお願いいたします。

令和5年11月に開催した第8回農業委員会大会では、約600名の参加を得て政策提案や申し合わせ決議が採択されましたが、この政策提案をもって、「食料・農業・農村基本法」の見直しが進行中の同月30日に、県選出国会議員に対して要請活動を行いました。法改正により新たな段

階を迎える農業・農村振興施策に関して、制度改革や予算の確保に期待するところであります。

基本法見直しでは「食料安全保障」が大きな論点となっております。近年の農産物価格の低迷に加え、ウクライナ情勢や円安等に起因する資材高騰、昨年の記録的猛暑に代表される気候変動リスクなどにより農業の魅力が低下している一方で、食料や資材の輸入リスクが迫っており、いかにして後継者を確保・育成して農業経営を継続させ、国民に食料を安定的に供給するか、適正な価格形成の仕組みづくりも含め、「持続可能な食料システムの構築」について真剣に議論すべき段階にあります。

来年3月末に期限が迫っている地域計画の策定に向け、各地域で話し合いが進んでいるところであります。目標地図の素案作りも含め、今こそ地域農業の将来を見据えた農地等利用の最適化について積極的に議論し、活動の充実を図ってまいりましょう。

今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」ですが、「甲」は十干の1番目であり、「新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になる」年とのことです。この縁起のよい年、皆様が健康で御活躍されますことを御祈念申し上げ、年頭にあたっての挨拶といたします。

新年の御挨拶

多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して



明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウィルス感染症の感染症法上の位置

付けが5類感染症となり、3年余りにわたるコロナ禍によって停滞していた県民生活や社会・経済活動が再び動き始めました。また、夏の全国高等学校野球選手権大会での仙台育英学園高等学校の2年連続決勝進出や、台湾の大手半導体企業の県内への進出決定など、明るい話題もありました。

今年は、「新・宮城の将来ビジョン」による県政運営がスタートして4年目を迎えます。昨年に引き続き、多様な主体と連携・協働しながら、復興完了に向けた施策に力を入れるとともに、「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる将来像の実現に向けた取組を着実に推進してまいります。

宮城県知事 村井嘉浩

特に、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による「変革みやぎ」の実現を最重点課題のひとつに掲げ、農業分野においては、県内7か所で基地局を整備し、昨年4月に本格運用を開始したRTKシステムの活用を促進する等、将来に向けて活力ある農業・農村が持続的に発展していくための「スマート農業」のさらなる普及拡大を図ってまいります。また、近年の県内農業における重要課題である、燃料や肥料、飼料の価格高騰、農業の担い手不足や高齢化への取組についても、迅速かつ積極的に推進いたします。

農業委員会の皆様には、昨年の法改正以降、「地域計画」の策定に御尽力いただいておりますが、令和7年3月までの策定に向けて、今年が総仕上げの年になりますので、引き続きのお力添えをよろしくお願ひいたします。

今後とも、多様な主体による魅力ある地域づくりを進めるとともに、県民一人一人が幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城を目指して取り組んでまいりますので、より一層の御理解と御協力を願い申し上げます。

令和5年度全国農業委員会会長代表者集会・本県選出国会議員への要請活動

令和5年11月30日、東京都の文教シビックホールにおいて、令和5年度全国農業委員会会長代表者集会が開催され、全国から農業委員会会長等約1,300名（本県31名）が参加しました。

代表者集会では、「令和6年度農業関係予算の確保及び農地・担い手等関連施策に関する要請」、「『地域の農地を活かし、持続可能な農業・農村を創る全国運動』の推進に関する申し合わせ」、「『情報提供活動』の一層の強化に関する申し合わせ」の3議案について決議が行われました。

要請については、①食料の安定供給の確保など食料安全保障の強化に向け、輸入依存度の高い食料・生産資材の国内生産の拡大、再生産を可能とする適正な価格形成の推進、②農地施策の強化に向けた農地の確保と適正・有効利用のための法整備等、③経営・人材政策の強化として多様な農業を担う者の位置づけ等を中心に取りまとめられました。

申し合わせの内容は、地域計画の策定への積極的な関与、日常的な農地等利用の最適化活動の実施、農業委員会の体制強化、全国農業新聞の普及拡大や全国農業図書の活用、農業委員会

だよりの発行等を通じた農業委員会活動の「見える化」の徹底等です。

要請・申し合わせの決議事項は全て、満場一致で決定され 全国農業委員会会長代表者集会ました。要請については、代表者により政府・国会への要請活動が実施されました。

また、集会では、「地域計画策定に向けた農業委員等の積極的なかかわり」について宮崎県宮崎市農業委員会から、「地域計画策定の取組」について福井県若狭町農業委員会から、「若者が帰り、遊休農地を活力ある大地に」について長野県長野市農業委員会から、それぞれ活動事例の報告が行われました。

なお、本県では、本集会で決議された要請と併せ、第8回宮城県農業委員会大会の決議事項（食料安全保障の確立に向けた持続可能な農業・農村を創るための政策提案）について、集会に参加した農業委員会会長による本県選出国会議員13名への要請活動を実施しました。



第8回宮城県農業委員会大会を開催しました

令和5年11月15日、名取市文化会館大ホールにおいて「第8回宮城県農業委員会大会」を開催しました。本大会は、県内の農業委員及び農地利用最適化推進委員が一堂に会し、現場の声を積み上げた政策提案や農業委員会活動の展開に当たって意識統一を図る目的で毎年開催しているものです。今年は「『地域計画』による持続可能な農業・農村の創生に向けて」をテーマに、県内から約600名の参加を得て開催しました。



中村会長あいさつの後、大会表彰が行われ、長年にわたり委員や職員として御尽力いただいた方々、そして情報活動において御功績のあった農業委員会に対し表彰が行われました。今年は25名の個人と2つの農業委員会が対象となり、それぞれ晴れやかな表情で受賞されていました。

また、委員特別研修会として、東北大学大学院の角田毅教授から「地域農業・農村を担う人

材の育成・確保と経営継承」と題した御講演をいただきました。講演では、若者が参入できる器をつくり責任をもって育てるこことや、話し合いによって地域農業の目指す姿を考えることの重要性、そのポイントとして①情報発信、②色々な人を巻き込むこと、③既成概念にとらわれない新しい発想が大切であることなど、示唆に富むお話をいただきました。

議事においては、「食料安全保障の確立に向けた持続可能な農業・農村を創るための政策提案」「地域の農地を活かし持続可能な農業・農村を創る宮城県運動を推進するための申し合せ決議」「農業者年金加入推進活動の強化に関する申し合せ決議」「情報提供活動の強化に関する申し合せ決議」の4つの議案が諮られ、満場一致の拍手で決議されました。

最後に、大会決議事項の実行や活動記録の徹底と点検評価により農業者の期待と信頼に応えていく旨の大会宣言を満場一致で採択され、大会は盛会の裡に終了しました。

おめでとうございます 第8回宮城県農業委員会大会表彰

第8回宮城県農業委員会大会において、長年にわたる農業委員、農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局職員としての功績及び全国農業新聞の普及功績を称え以下の皆さんを表彰いたしました。

【宮城県知事感謝状】(敬称略)

市町村農業委員・農地利用最適化推進委員として在職20年に達する者（1名）

大和町 高橋 淳

【一般社団法人宮城県農業会議会長表彰】(敬称略)

(1) 永年勤続者表彰

① 市町村農業委員・農地利用最適化推進委員として在職15年に達する者（22名）

| | |
|-----|-------|
| 角田市 | 柄目利徳 |
| 柴田町 | 岩間良隆 |
| 丸森町 | 二階堂久勝 |
| 仙台市 | 高橋彦義 |
| 仙台市 | 菅野則一 |
| 仙台市 | 阿部康長 |
| 仙台市 | 引地勝 |
| 名取市 | 入間川弘敏 |
| 名取市 | 伊藤富良 |
| 亘理町 | 木部春子 |
| 松島町 | ハマコ子 |
| 利府町 | 木橋順子 |
| 大崎市 | 高橋裕之 |
| 涌谷町 | 佐藤雅一 |
| 美里町 | 渡辺光典 |
| 栗原市 | 黒澤雅喜 |
| 登米市 | 五十嵐善喜 |

登米市 芳賀秀二

登米市 武田正男

東松島市 大道保

東松島市 阿部喜生

気仙沼市 三浦悦子

② 市町村農業委員会事務局職員として在職10年に達する者（2名）

大崎市 門間道浩

登米市 千葉貴行

(2) 情報優良表彰

「全国農業新聞」の普及拡大に功績のあった農業委員会

① 購読部数部門（1農業委員会）

令和4年における月平均部数が、農業委員・農地利用最適化推進委員一人あたり5部以上の農業委員会

加美町農業委員会 5.9部

② 普及部数部門（1農業委員会）

令和4年度末時点において農業委員・農地利用最適化推進委員皆購読を達成している農業委員会で、同年度内の農業委員・農地利用最適化推進委員一人あたりの普及部数が最上位の農業委員会

富谷市農業委員会 1.7部

みやぎオンライン就農セミナーを開催しました

令和5年10月28日宮城県仙台合同庁舎において、みやぎ農業振興公社の主催、宮城県農政部、宮城県農業会議、宮城県農業協同組合中央会の共催で、「令和5年度みやぎオンライン就農セミナー」を開催しました。セミナーには新規就農希望者14人に加え、蔵王町、柴田町、川崎町、色麻町、加美町、美里町、気仙沼市、南三陸町の計8農業委員会が参加し、町のPR資料を提供しました。



(株)西野農園 代表取締役 西野拓氏の実践報告

始めに、みやぎ農業振興公社から、「宮城県における新規就農について」、次に丸森町農林課から、町の農業及び支援体制の概要や、先輩就農者の事例について説明がありました。

その後、先輩農業者の実践報告として、株式会社西野農園(名取市)代表取締役の西野拓氏から、就農に至った経緯、就農後の生活、新規就農する際の心構えや新規就農後の方針など、就農希望者へのアドバイスをいただきました。参加者からも活発な質疑があり、有意義なセミナーとなりました。

セミナー終了後のアンケートでは、回答者全員が「参考になった」と回答し、最も参考になった内容は「就農から営農開始までの流れについて」で、70%以上を占めました。

農地利用の最適化の推進に向け新規就農者の確保・育成は重要な取組の一つです。宮城県農業会議では、月に2回開催している「就農相談会」などをとおして、新規就農希望者を支援してまいります。

「北海道・東北ブロック女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会」が開催されました

令和5年11月7日に秋田市において「北海道・東北ブロック女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会」が、北海道・東北各県農業会議と東北各県女性農業委員会組織の主催により開催されました。全体で246名、本県からは37名が出席しました。

基調講演は、東京農業大学国際食料情報学部の堀部篤教授から『期待』を気にせず、伸び伸び活動を～『特別』から『当たり前』に～の題名で、農村では特に若い女性の人口減少が著しい現状と、その中で女性が農村に留まり定住するための環境づくりや女性登用の必要性と効果等について、統計や参考図書の紹介を交えての講演がありました。

また、秋田県横手市農業委員会の飯野正和会長と、本県の美里町農業委員会長でみやぎアグリレディス21会長の伊藤恵子氏からの事例発表をもとにした意見交換が行われました。伊藤会長からは、10月31日と11月1日に県内2会場で開催した「女性の社会参画に関する懇談会」で、



美里町農業委員会長・みやぎアグリレディス21会長の伊藤恵子氏からの事例発表

若い女性農業者や新規参入者と懇談した内容や県内の女性委員登用の状況、各市町村で進められている地域計画に女性委員が関わる重要性等について発表されました。令和6年度は山形県内で開催される予定で、山形県農業委員会女性の会の黒澤ちよ子会長から挨拶があり閉会しました。

宮城県農業者年金加入推進セミナーを開催しました

令和5年12月21日に、宮城県農業者年金協議会、宮城県農業会議、宮城県農業協同組合中央会の共催で、名取市文化会館を会場に令和5年度宮城県農業者年金加入推進セミナーを開催しました。本セミナーは、県内の優良事例を情報共有し、新規加入者確保に向けて実施したもので、当日は、官澤綜合法律事務所 弁護士 官澤里美氏をお招きし、「相続制度の改正と相続土地国庫帰属制度の創設」と題して、具体例を交えながら、相続に関する講演をいただきました。

事例報告では、美里町と加美町から報告が行われ、美里町農業委員会長の伊藤恵子氏は「委員一人につき、最低一人は声がけして事務局に報告している。女性農業者を対象とした研修会



官澤綜合法律事務所
弁護士 官澤里美氏の講演

を開催し、直接、女性に働きかける場を設けています。貯金は使えば減るが、農業者年金は運用結果で増える見込みがある。皆さんも女性に働きかけてほしい」と話しました。

加美町農業委員会では加入推進名簿をもとに、農業委員が対象者に声がけを行い、興味のある人には事務局職員が説明に伺う取組を紹介し、事務局長の庄司一彦氏は「珍しい事はしていない。日頃の情報共有が成果に繋がっていくと思う」と話しました。

宮城県における地域計画策定に向けた取組

宮城県農政部農業振興課

宮城県においては、地域計画を196地区で策定する計画となっており、各市町村では令和5年度から策定に向けた取組を本格的にスタートさせております。

「地域計画」は、将来の地域農業のあり方を明確にし、概ね10年後の農地利用の姿を見る化した「目標地図」を併せて作成することから、地域の話し合いやアンケートなどを通じて幅広い意見を取り入れて策定する必要があります。

令和5年度前半は、県内の多くの市町村において関係機関の役割分担やアンケート調査の実施等、協議に向けた準備を進め、秋以降は、各地区で地域農業の担い手等を集めた協議の場が設けられております。

地域計画は、地域の魅力や特徴を盛り込んで描く将来ビジョンとなるため、県では、令和4年度は4地区、令和5年度は3地区のモデル地区を設置し、地域の将来ビジョンや目標地図の策定に向けた話し合い（協議の場）を支援しております。

令和5年度のモデル地区である南三陸町入谷（いりや）地区では、10年後、地域で活躍することが想定される「担い手」を集めて協議の場を設けたところ、将来の地域農業に対するアイディア出しや意見交換が活発に進み、入谷オリジナルの3つのプロジェクト案が誕生しています。



南三陸町入谷地区での検討状況

また、色麻町色麻地区では、第1回目の協議の場に町内24行政区のリーダーを参考して、地域の課題や、将来取り組んでいきたいことを話し合いました。その後、参加したリーダーが結果を地域に持ち帰り、地域で話し合いを深めています。まさに、色麻町全体がワンチームとなって地域計画策定を進めています。

さらに、今年度の新たな取組として、宮城県農業会議と共に、県内4か所で関係機関を参考した地域計画情報交換会を開催しています。市町村や農業委員会の職員が抱えている疑問の解決につなげるとともに、他市町村の良い取組を知る機会となりました。1月には各地域で2回目を開催する予定です。

加えて、目標地図作成の重要なツールとなる「農業委員会サポートシステム」においても、宮城県農業会議が昨年度より回数を増やして操作研修会を開催するなど、早期の定着を促しています。



色麻町色麻地区での検討状況

地域計画は、担い手育成、農地の集積・集約化等、今後の地域課題解決の羅針盤となるものです。これまで守り続けてきた農地を地域の中で次の世代に着実に引き継いでいくためにも、幅広い意見を取り入れながら地域の計画策定を進めていけるよう、県として引き続き支援してまいります。

農業委員会事務局職員の情報交換会を開催しました

令和5年11月28日、宮城県農業委員会事務研究会（以下、事務研と略す）、宮城県、宮城県農業会議の主催で、「農業委員会業務に係る情報交換会」を富谷市の東北自治総合研修センターで開催し、県内農業委員会職員等25名が参加しました。

今回の情報交換会は、事務研役員会において「職員同士で、業務の情報交換できる機会があると良い」と意見が出されたことを契機に実施したものでした。

事務研会長の遠藤貞氏（登米市農業委員会事務局長）より「業務上の課題等を情報交換することで、農業委員会間のヨコ連携を一層強めてほしい」と挨拶があった後、近隣市町村などの地域性を配慮した4つのグループに分かれ情報交換が行われました。主なテーマは、「農地法関係」と「農地等利用の最適化推進」です。約2時間に渡る情報交換終了後、各グループから話し合った課題等について発表いただきました。

農地法関係は、農地取得の下限面積撤廃で、小面積でも取得できることになった事への意見が集まり、「農地の全取得者から営農計画を取ることにした」「就農支援も兼ね、取得者と委員とで懇談いただいた」等の発表がありました。農地転用では、太陽光発電事業者の対応に追われ

ているとの意見がありました。回数や件数が多く、1度に100件以上照会された委員会も。「業者には、日数がかかることを、事前に伝えて了解を取っている」「業者の照会の農地については、地権者の同意を得ているか確認している」などの取組事例がありました。農地等利用の最適化活動関係は、地域計画への取組や遊休農地対策等についての意見が多く出されました。

意見がつきずに終了時間を迎えたこともありてか、参加者からは「また情報交換できる機会をお願いしたい」と要望され、情報交換会は終了しました。



農業委員会事務局職員によるグループに分かれての情報交換

お知らせ

○令和5年度農業委員会だよりコンクール審査結果について

令和5年12月15日に、令和5年度農業委員会だよりコンクールの審査を実施しました。

このコンクールは、農業委員会の必須事務である農地利用の最適化活動への取り組みにおいて、農業委員会の活動内容を農業者や地域住民に情報提供することが一層重要になっていることを踏まえ、農業委員会活動の見える化の一手法である「農業委員会だより」等広報紙の発行促進と紙面内容の充実に向け実施しているものです。

今回は、10市町農業委員会から応募があり、厳正な審査の結果、次のように決定されました。

審査員からは、「地域の話題や農業者紹介の記事、独自記事を設けるところもあり、内容に独



審査の状況

自色の出ている委員会も多い。特に女性農業者やその団体の紹介・取組ページを設けてい

るのは良い。」「フォーマットが完成している委員会は安定して発行している。」などの講評をいただきました。

なお、表彰式は、令和6年3月に開催する宮城県農業会議臨時総会において行う予定です。

| | |
|------|----------|
| 最優秀賞 | 石巻市農業委員会 |
| 優秀賞 | 仙台市農業委員会 |
| | 加美町農業委員会 |
| | 栗原市農業委員会 |

新しく選任された常設審議委員の御紹介

[令和5年度第4回理事会(R5.10.17)において選任]



千葉伸裕
宮城県土地改良事業団体連合会専務理事